



消火器は、初期の火災を消すための身近で有効な設備です。だれもが使えるように使い方を確認しておきましょう。

【消火器の使い方】

安全ピンを抜く。

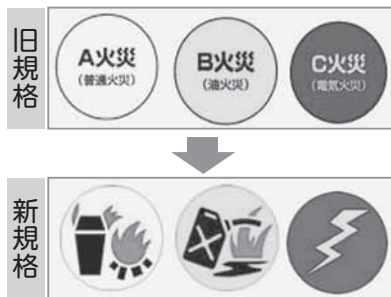
ホースを外し火元に向ける。

レバーを強く握って放射する。



【消火器の種類】

現在販売されている消火器には「業務用消火器」と「住宅用消火器」の表示がされています。また、新規格消火器の適用火災表示マークが絵表示になりました。



A火災 (普通火災) 紙・木材等の主に固形物が燃える一般的な火災に適用しています。

B火災 (油火災) 油、石油類による火災に適用しています。

C火災 (電気火災) 電気製品・電気設備の火災に適用しています。

※家庭用消火器として販売されている粉末消火器は火災のほとんどに対応しています。

【点検と処分方法】

消火器も、さびや損傷などの異常が生じると火災の時に本体が破裂して怪我をすることがあります。日頃から消火器を点検し異常を発見した場合には絶対に使用しないでください。異常が見られた消火器や不要になった消火器の点検や処分については、購入したお店または消火器メーカーなどに問い合わせてください。平成 22 年からは廃消火器リサイクルシステムの運用が開始されリサイクルシールが添付されていない消火器は廃棄処分できなくなりました。また、平成 23 年からは消火器の規格や点検の内容が改正されました。購入される場合は十分注意してください。

**あなたとあなたの家族の安全のために！
地震から身を守る 10 カ条**



1. まず身の安全を

倒れやすい戸棚や本棚からすぐに離れ、丈夫なテーブルや机の下に身を隠す。

2. グラツときたら火の始末

落ち着いて、揺れが収まってからガスコンロやストーブの火の始末をする。

3. 窓や戸を開け出口の確保

逃げ口を失ったら避難できません。まず、避難口を確保する。

4. 慌てて外に飛び出さない

慌てて外に飛び出すと、瓦の落下やガラス片でかえって危険なので飛び出さない。

5. 火が出たら慌てず初期消火

火が出て天井に燃え移らなければまだ大丈夫。落ち着いて消火活動をする。

6. みんなで助け合い応急救護

身近で怪我人を見つけたら、みんなで協力し応急救護をする。お年寄りやからだの不自由な人にも声を掛け、みんなで助け合う。

7. 正しい情報、落ち着いた行動

うわさやデマに振り回されず、ラジオなど正しい情報で落ち着いた行動をする。

8. 避難は徒歩で冷静に

普段から避難場所を確認し、いざという時に落ち着いて行動をする。

9. 狭い路地やブロック塀に近づかない

ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので近づかないようにする。

10. エレベーターは使用しない

エレベーターは、停電などで途中停止することもあり危険なので使用しない。